

「京都新光悦村」に企業進出



現地説明会であいさつする佐々木市長▼

▲山田知事、佐々木市長らが記者発表

昨年九月二十一日から分譲が開始された「京都新光悦村」に、伝統産業と先端産業合わせて四社の申し込みがあり、さらに、伝統工芸分野などから立地表明がありました。十一月二十九日、京都府庁知事室で山田啓二知事と佐々木穂納市長らによる記者発表が行われました。

「京都新光悦村」は、京都縦貫自動車道の園部インター西側の丘陵地に計画している伝統産業と最先端産業の融合を目指す新しい産業の拠点として京都府などが、約四十億円かけて整備した団地です。

この「京都新光悦村」に進出する企業などが決まり、昨年の十一月二十九日、山田啓二京都府知事と南丹市の佐々

木穂納市長らが記者発表を行いました。

進出する七社・機関のうち精密バネ製造のマルホ発條工業（京都市）と京象嵌製造の川人象嵌（京都市）、超精密研磨加工のクリスタル光学（大津市）、金属の精密機械加工の春日製作所（京都市）の四社はすでに立地が決定、今年の夏以降の操業を予定しています。



京都伝統工芸専門学校（園部町小山東町）、伝統工芸品などの販売を手がけるくろちく（京都市）、銘菓製造の井筒八ッ橋本舗（京都市）は進出を表明、今後京都府と詳細を詰めることになっています。「京都新光悦村」の分譲予定面



▲京都縦貫自動車道園部インター西側の丘陵地に計画している「京都新光悦村」

積は約九万平方メートルで、今回の進出により、約七割が埋まることになり、多くの従業員が南丹市に勤務されることになります。